

## 桐生歴史文化資料館(きりゅうれきしぶんかしりょうかん)

矢野商店の隣にある近代的な建物の1階あります。館内には、桐生織物の歴史資料などが展示されており、特に白瀧姫の生き人形は圧巻です。その他、期間を定めて行われるテーマに基づいた企画展示や、ショップもあります。入館無料ですので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



## 矢野久左衛門 (やのきゅうざえもん)

初代・矢野久左衛門は、享保2年(1717)に近江国(今の滋賀県)蒲生郡日野から桐生新町に來往しました。そして、桐生新町に雜貨の中継所を設けて、商売を始めたのが最初です。

二代目・久左衛門は、寛延2年(1749)に桐生新町二丁目へ店舖を構え、清酒醸造・賞商などを営み、矢野商店の基礎を築きました。その屋号は祖父の名前から「近江屋喜兵衛」と称しました。

天明4年(1784)には、近江屋喜兵衛商店も四代目・久左衛門の代になり、酒の醸造をはじめ味噌・醤油の醸造も手掛けるようになり飛躍的に発展しました。

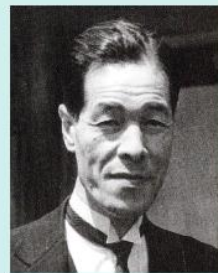
八代目・久左衛門は、明治6年(1873)に酒・味噌・醤油の醸造部門を「近江屋矢野本店」とし、荒物雜貨、薬種、染料部門を増設して支店としました。そして、味噌蔵、洋酒蔵、穀蔵、塩蔵や酒屋小路なども完成させました。

九代目・久左衛門は、明治35年(1902)に呉服太物(袴・蓑・蓑などの縁物)部門を支店とし、大正3年(1914)には、醤油蔵や仕込蔵を造りました。

十代目・久左衛門の代になると、旧矢野本店が完成し、大正9年(1920)には煉瓦蔵を建設しました。さらに、昭和2年(1927)には、本町五丁目桐生市で最初の大型店「矢野呉服店」を開業しました。この建物は「矢野デパート」と呼ばれ、一部三階建ての店舗でした。



初代・矢野久左衛門  
(矢野本店蔵)



前原 一治  
(1900~1968)

## 前原一治 (まえはらいちじ)

前原一治は、日本料機株式会社の初代社長前原悠一郎の次男であり、戦後の公職選挙法によって選ばれた初めての市長です。桐生市長としては六代目にあたり、太平洋戦争後間もない昭和22年(1947)から昭和38年(1963)までの西暦16年にわたって桐生市長を務めました。「文化の香り高い郷土づくり」を掲げ、「文化市長」として名を残し、没後の昭和49年(1974)に名誉市民第一号を贈られています。

前原一治が市長になった時期は、相次ぐ台風被害の復旧工事、引き揚げ者の住宅建設、六三制実施に伴う小中学校校舎の新築などで市の台所は火の車でした。こうしたどん底の財政を立て直すため、前原市長は自説を曲げて囂を誘致しました。また、昭和33年(1958)、巖部桐生のシンボル建築文化会館を誕生させたり、一人の少年の投書を引きかけとして新川児童遊園地(昭和28年(1953)オープン)を建設したりしました。

## 近江屋喜兵衛(おうみやきへえ) (旧前原邸)

古くから織物業を営んでいた前原家九代傳次郎は、明治八年に祖母の美家である岩本家から現在地を買い受けた。

この地では三代岩本茂兵衛が渡辺華山の妹茂登を嫁に迎えると、華山はその縁で桐生を訪れ『毛武遊記』を残している。

この地に移り住んだ傳次郎の長男悠一郎は、模範工場桐生燃糸合資会社を創業、後にこの邸宅を新築した。

悠一郎は政財界で活躍する一方、子女の教育にも熱心であった。悠一郎の二男一治は、戦後初の公選市長として四期十六年努め、教育・文化行政に取り組み、桐生市名誉市民第一号となった。

株式会社矢野は平成二十九年に創業三百年を記念し、桐生市の教育・文化の向上を発信し続けた人々が住んだ前原邸を取得し修復を完成させると、江戸期に矢野が創業以来明治初年まで「近江屋喜兵衛」という名前で店を構えていた事に因み、その功績を讃え、旧前原邸を近江屋喜兵衛と名付け公開することとした。

(「近江屋喜兵衛」パンフレットより)



